

やじろべえ

発行日 2024年3月
発行 中原区地域教育会議
編集 広報委員会
事務局 川崎市中原市民館
川崎市中原区新丸子東3-1100-12
電話 044-433-7773 FAX 044-430-0132

第29回中原区子ども会議（報告）

2024年1月21日（日）中原市民館多目的ホール 13:00～

テーマ：『みんなで作ろう！カラフルマップ』



ふわりーとぶらっと

令和6年1月21日、中原市民館に於いて第29回中原区子ども会議を開催した。今回の子ども会議は【みんなで作ろう！カラフルマップ】をテーマに中原区の地図を囲みながら、中原区の良いところ・変えていきたいところ・理想の中原区の三点について話し合った。このテーマは、昨年度のテーマであった【あったらいいな、こんな場所】を参考に、子どもたちの理想を中原区に落とし込みつつ、視覚的な情報を用いて大人と子どもとの意見交流を円滑にすることを目的に設定されたテーマである。

また、今年度は分科会を前半後半に分け、後半からは子ども分科会と大人分科会を合同で行うなど、新しい取り組みの多い会議となった。

参加者：小学生（8人）、中学生（1人）、高校生（4人）
参加者が少人数であったことから分科会は分割せず、高校生の子ども実行委員メンバーが中心となって参加し、進行を進めた。

（第29回中原区子ども会議活動報告書より）

《当日の様子》



■開会あいさつのあと、全員で「川崎市子どもの権利条例」(DVD)を視聴。

■参加者の緊張をほぐすアイスブレイキング。

1つめは「二十の扉」事前に用意された複数のお題の中から出題者が1枚を選択。参加者は20回の質問で何であるかを当てるゲーム。

2つめは「はないちもんめ」これは、二つのチームに分かれ、チーム同士が向き合ようように一列に手をつなぎ、はないちもんめの歌詞に合わせて前後に動きながらそれぞれのチームが相手のチームから欲しい人を選び、選ばれた人同士がじゃんけんをする。負けた方は勝ったチームに入る。これを繰り返す遊びで名前を覚えた。

■子ども分科会（多目的ホール）

地図を囲む形で座り、中原区の「良いところ」「変えたいところ」「理想の中原区」について話し合いそれぞれ地図に付箋紙を使って貼り付けた。



■大人分科会（音楽室）

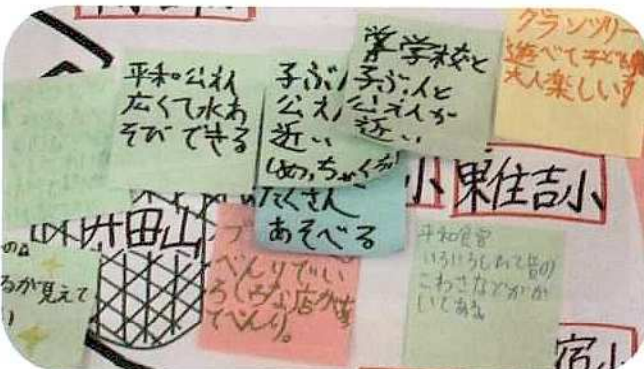
たんぽぽちゃサポーターが進行役になり、子ども分科会と同じテーマで、大人も書き込んだ付箋紙をホワイトボードに貼ってみた。



■子どもたちの会議が終わったところで、大人たちが加わり、子どもたちによって付箋に書かれた言葉を見ながら意見交換が行われた。



子どもたちから直接話を聞く大人たち（記録係が付いた）



子どもたちから出された意見の一例



■子どもたちと大人の交流の後は分科会の発表



大人分科会の発表



子ども分科会の発表



みんなの前で自分たちの意見を発表しました

今回の子ども会議は新しい取り組みが多く、混乱を招くのではという懸念もあったが、会議はこれまで以上に円滑に進み、特に分科会の在り方を変える上での主要目的であった子どもと大人の交流という面は十分に果たすことが出来たと感じる。

（サポーターH）

■区長から講評 中原区 区長 板橋茂夫



本日は、子どもたちと大人が交流するプログラムから見せていただきました。

子どもたちの意見では、公園でのボール遊びについて多くの意見がありました。

地域や公園を利用するみなさんと話し合い、ルールを作って、是非、子どもたちが遊びやすい公園を目指していきたいと思います。また、分科会でもたくさん御意見を頂きました。

今日は夢のある素敵なお話をたくさん聞くことができました。何か実現できるといいなと思いました。

■閉会のことは たんぽぽちゃ



みなさん有意義な話しが出来たでしょうか。（拍手）

普段気付くことが出来ない中原の良いところや変えていきたいところが見えてきたかと思っています。

わたしたち一人一人が地域の在り方に興味を持ち、中原区を少しでも住みよい町にしていけたらいいと思います。

「第35回教育を語るつどい／第53回保護者と教職員のつどい」2024年2月3日(土)13:00～

参加者：中原市民館多目的ホール(50名)及びZoomによるリモート配信(49名)

主催 中原区地域教育会議「教育を語るつどい」企画実行委員会／川崎市教職員組合中原支部／川崎市教育委員会

共催 中原区PTA協議会

『肩をはらずに生きよう』～思考(メンタル)の切り替え方～

◇開会の言葉 議長代理(但野文子)



地域教育会議は川崎市独自の社会教育団体として、川崎7つの各区と、51の中学校区に置かれています(中学校区は1中学校区を核に小中学校を中心とした地域で構成)。

保護者、学校、地域が協働、連携することにより子どもたちを見守り育み「子どもがいきいき育つまち、おとなもたのしく学べるまち」を目指して活動しております。

全国に先駆けて出来ました、子どもと大人で話し合っ
て決めた「川崎市の子どもの権利条例」の前文に子ども
たちからの言葉として残っております『大人がまず幸せ
でいてください』との言葉。私たち大人は、この言葉をし
っかり心に留めなければいけないと思っております。

(抜粋)

◇挨拶 川崎市教職員組合中原支部支部長(藤田和也)



川崎市の「子ども権利条例」および、川
崎教育プランにかかげられている理念の元、
私たち教職員含めて大人たちが毎日笑顔で
過ごし、それぞれの場所で笑顔で接して、そ
して学校、保護者の方々、地域の方々と絆を深めながら
日々様々な活動をくり広げていくことが必要なのかなと
思います。(一言抜粋)

◇挨拶 中原区PTA協議会会長(相沢滋子)



こどもの生きづらさは、大人の生きづら
さそのままの写し鏡のように思われます。
2024年8月に日本PTA全国協議会の全国
大会を川崎市で開催致します。等々力アリ
ーナに川崎市内と全国から数千人ほどのPTAの仲間を
お迎えして「ウェルビーイング」をテーマに開催する全
国研究大会です。大人一人一人の考え方、気持ちの持ち
ようによって、生きづらさから解放されて伸びのびと過
ごせる子どもたちが一人でも多く増えていきますように
と願っております。(一言抜粋)

◇挨拶 中原区 区長(板橋茂夫)



中原区は現在、人口が26万6千人で、
子どもの出生数は年間2,300人と、市内で
も非常に多く、今も人口が増え続けていま
す。

こうしたなか、川崎市は今年、市制100周年を迎えま
した。これを機会にこれからの100年を会場の皆様と、
そして地域の皆様や子どもたちの声を聴きながらより良
いまちづくりに向けて一緒に考えていきたいと思ってお
ります。(一言抜粋)

◇子ども会議「たんぼぼちゃ」報告(抜粋)



「たんぼぼちゃ」は、子ども会議
に向けて毎月2回ほど活動してい
ます。未来フェスタでは輪投げブ
ースや、合宿では子ども会議を想
定したプレ会議や話し合いの練
習などを通してメンバーの仲を深めたりしています。去
年の3月からは地域活動として小杉駅周辺のゴミ拾い等
もしています。

今年の子どもの会議は、東京タワーみたいな中原タワー
をつくってほしい。や、アスレチックや遊園地が近くに
欲しい。公園の遊具にもっとお金をかけて欲しい。もっ
と人が集りやすい場所が欲しい。などの意見が出ました。
他に、多摩川にプールを作りたい。小杉駅の横須賀
線と南武線の距離が遠いと思うので、もっと近くして欲
しい。などの報告でした。(詳しくは、1～2ページ「第2
9回中原区子ども会議」をご覧ください)

今回の子ども会議は、東京タワーみたいな中原タワー
をつくってほしい。や、アスレチックや遊園地が近くに
欲しい。公園の遊具にもっとお金をかけて欲しい。もっ
と人が集りやすい場所が欲しい。などの意見が出ました。
他に、多摩川にプールを作りたい。小杉駅の横須賀
線と南武線の距離が遠いと思うので、もっと近くして欲
しい。などの報告でした。(詳しくは、1～2ページ「第2
9回中原区子ども会議」をご覧ください)



《講演》 講師紹介 松前兼一氏・・・1952年徳島県
生まれ。長年に渡り哲学者芳村思風先生に師事し感性論
哲学を学び、後継者として活動している。

また森のイスキア主宰故佐藤初女先生を慕いその透明
な母性に感銘を受け、その精神を受け継ぐため2016年
『幸せ講座』『幸せ経営講座』を開講し、2023年一社)
母性経営研究所を創立。母性による経営を推進している。

現在は5人のお孫さんの成長を見守ることをとても楽
しみにしておられます。

《講演》 概要



私の中では72歳から人生の本番と考
えてきたので、いよいよ本番かという気
持ちで、わくわくしているところであり
ます。1つは、私の父親が72歳で亡くな
ったこと。また、私の尊敬する佐藤初女
先生という方が「ガイヤシンフォニー
No2」という映画に出られたのが72歳でした。

14歳って、漢字で十四と書きますよね、あたりまえで
すが、14歳の心と書いて行動という「ぎょうにんべん」



を付けますと「徳」と書か
ますし、14歳の心と書いて「耳」を付けると「聴く」
訳ですね。昔から14歳ってとても大事だったんだ
ろうなと思うんです。

14歳のあなたが今の大人であるあなたの目の前に現れて、じーっと見て、これが30年後の姿かと、40年後の姿かという感じでみたときにどんな言葉をかけてくれるのかというワークを進めていったわけです。「あんまり褒めてくれなかった」とか、「がっかりだわ」とかいろんない言葉はあるんですけども、「いや、すごいな」とか「こんなになれるの」とか「うれしいな」とか、純真なその心の声を聴くというワークをやっていると、結構自分を振り返ることになるんですね。これは、私が37~8歳ぐらいの時にある心理学者から聞いたワークです。

その時、私化粧品会社の社長をしていまして、そのワークを行ったことがあるんです。そうすると14歳の僕は、「すごいな」、でも、関西の方ですから関西弁で「好きじゃない」っていったんですね。

私は46歳の時に転機がありまして、23歳で創業した化粧品会社がなくなり、手放すという大きな挫折がありました。とにかく頑張って大きくさえすれば必ず、まあ、経済的な幸せがあるだろうし、いろんな充実感もあるだろうからと、成功の向こうに幸せがあると思い込んでやってきたんですね。でもなかったんです。

それで、48歳の時に東京に出てきて、自宅の簡易ベットに寝て、時々カプセルホテルに泊まるのが一番贅沢だったという時の自分を見てどう思うだろうと、どういうふうな言葉をかけてくれるだろうと思い出してやってみたんです。14歳の僕は「格好いい」って言ってくれたんですよ。バリバリ頑張っているときは「すごいな」「でも好きじゃない」というふうに言われたのですが、その、潰してもまた何かやり直してみようというような感じでしょうか、葛藤して模索している姿がかっこいいと思ったのかかわからないのですが、「かっこいい」と言ってくれたんですよ。それが今でも思い出して、少し涙ぐんでしまうんです。

僕は72歳になろうとしています、14歳のワークを時々行いいつまでも14歳の自分からちょっと褒められるような自分でありたいと思っています。

佐藤初女先生を私が訪ねたのが46歳、それから16ぐらいお邪魔し、そのことを通じていろんなことに気付きました。60歳を前に、48歳で東京に出てきて、いろんな哲学を学んでみたもののなかなか自分の思ったような所に行かないので、やはり、幸せの方にもっとシフトしないとというふうに思ったんですね。

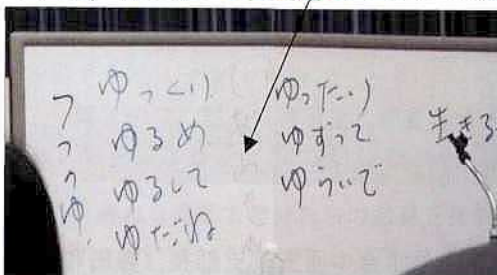
模索しながら“7つの「ゆ」”というものを考えてそれを実行して見たら、ほんとうに不思議なんですけども、すごい頑張ったということもないのに、良い方向へ良い方向へ、幸せの女神に導かれるように何かこう「ふわっと」してくるんです。16時間も毎日必死になって働いていたときは得られなかった感覚なんですね。

(7つの「ゆ」)の話しをしましょう。

1番はじめは『ゆっくり』です。ゆっくりの反対って何でしょうか？(急ぐ)(早く)(急に)(あくせく)、忙しいですね。僕は全然ゆっくりしていなかった。

2番目は『ゆるめる』です。これがなかなか出来ない。休日も頑張っちゃうとか。ゆるめるの逆は何かきゅっと締め付けたりとか、そう言う形によって自分を強制するということですね。—このような形で講義は進む—

(ゆっくり)(ゆるめ)(ゆるして)(ゆだね)(ゆったり)(ゆずって)(ゆらいで)生きる。これを7つの「ゆ」というふうに名付け57歳から58歳のときに、自分で決めて自分でやり始めました。そうすると、起こってくる現象が何か知らないけれど今までと違う現象が起きてくるんですね。(中央に「しあわせ」と書いてある)



以前は、「成功の向こうに幸せがある」というふうに思い込んでいたが、幸せはなかった。

それで、次はこれを実践して、「幸せだなあー」というのを日々感じていたら、成功がついでに付いてくる。目指していないのに付いてくるって良いですね。

みなさんの人生も本当に言えないことも、つらいこともたくさんあると思うんですが、出来れば金子みすゞさんじゃないですけど、明るい方へ自分の人生を選択して選んでいって頂ければなと心から思います。有り難うございました。(拍手)

《閉会の言葉》 中原市民館館長 福田依美子



終始穏やかなお話で時折クスッと、また時折ドキッとするお話が多かったのではないのでしょうか。

先生が作り上げられました(7つの「ゆ」)ですけれども、会場の方もおっしゃっていましたが、反対のことばかりしていると思われた方も多いのかなと思います。私もそうです。そこで、一つでも、一瞬でもやってみて、これを積み重ねていってみなさんに合った今日の主題である～メンタルの切り替え方～をそれぞれ見つけていただき、迷ったときには(7つの「ゆ」)に立ち帰るというのがいいのかなと思いました。本日はありがとうございました。(拍手)

掲示板・・・令和6年度総会のお知らせ

■2024年5月23日(木) 18:30~

■中原市民館視聴覚室